

第1編 はじめに

第1章 計画策定の背景

第1節 策定の趣旨

これまで本市は、目指す将来都市像を掲げた総合計画を6次にわたって策定し、時代に対応した市政運営に総合的・計画的に取り組んできました。

令和3（2021）年3月に策定した「第6次上尾市総合計画」では、将来都市像を「みんなで作る みんなが輝くまち あげお」とし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により市民生活に多大な影響が及ぼされる中、少子高齢化の進行をはじめとした大きな時代の変化に対応しつつ、“市民同士がつながりを持ち、協働でまちづくりに取り組むことで、誰もが安心・安全に暮らすことができ、将来にわたり市民と地域が輝き続けるまち”を目指して、取組を進めてきました。この中で、平成27（2015）年9月の国連サミットで採択された国際社会の共通目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」についても、地方創生の実現に資するものとして、SDGsの目標年次である令和12（2030）年の実現に向け、多様な主体と連携しながら取り組んできました。

このたび、「第6次上尾市総合計画」前期基本計画が令和7（2025）年度をもって計画期間を満了することから、令和8（2026）年度以降の新たなまちづくりの指針となる、後期基本計画を策定しました。

今後はこの後期基本計画に基づき、これまでのまちづくりの成果も踏まえつつ、目指す将来都市像の実現に向け、総合的・計画的に取組を展開していきます。

第2節 計画の構成と期間

「第6次上尾市総合計画」は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」により構成します。この計画は、「基本計画」のうちの後期基本計画にあたります。

(1) 基本構想

【令和3（2021）年度～令和12（2030）年度（10年間）】

市政運営の指針となる10年間の構想であり、将来のありたいまちの姿（将来都市像）を掲げ、まちづくりの方向性を定めます。

(2) 基本計画

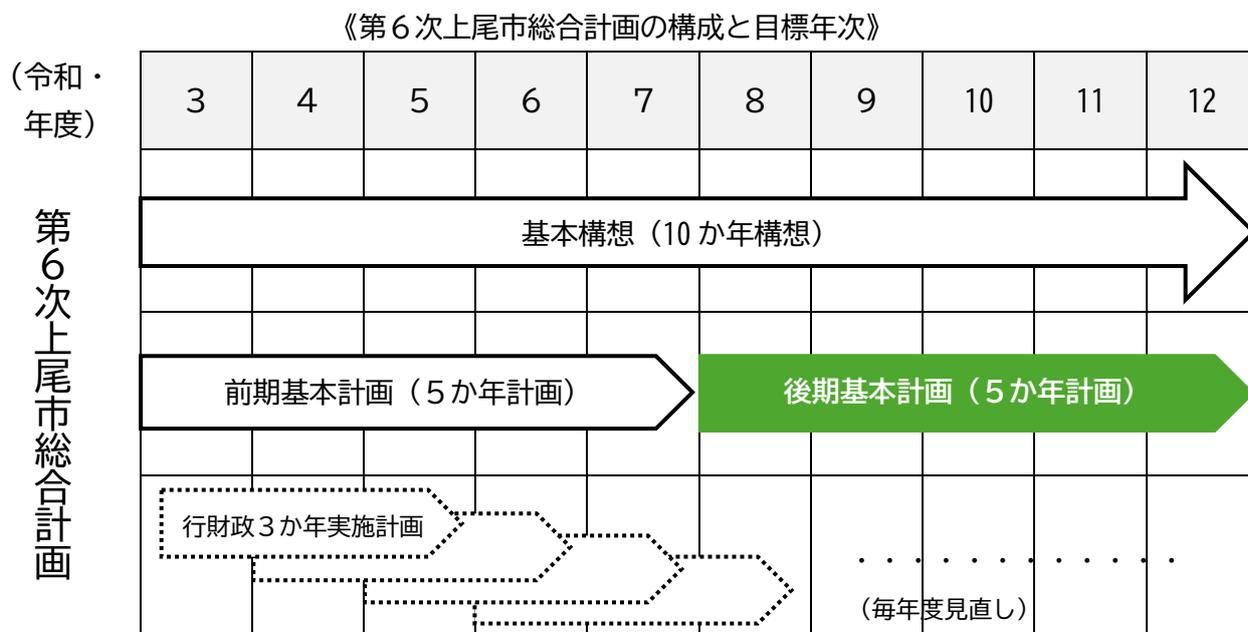
【前期：令和3（2021）年度～令和7（2025）年度（5年間）】

後期：令和8（2026）年度～令和12（2030）年度（5年間）】

基本構想で掲げる将来都市像を実現するため、各分野における施策の目標や方向性などを示すものです。今回は後期基本計画を策定します。

(3) 実施計画

基本計画に掲げた施策を推進するための具体的な事業を示します。計画期間は3年間とし、財政状況等と照らし合わせ毎年度見直ししながら、向こう3か年の計画を「行財政3か年実施計画」として定めていきます。



第2章 上尾市の概要

第1節 位置と地勢

本市は、埼玉県南東部、東京都心から35km圏内に位置する、総面積45.51km²の市です。東は伊奈町と蓮田市に、南はさいたま市に、西は川越市と川島町に、北は桶川市と接しています。

大宮台地のほぼ中央に位置する起伏の少ない地形で、市の中心部を鴨川と芝川が流れるほか、市の西境を荒川が、東境を原市沼川、綾瀬川が流れています。都市化により農地や緑地は減少していますが、市内の周辺部には武蔵野の面影を残す雑木林も残された、豊かな水辺と緑を有する地域です。

市内にはJR高崎線の上尾駅、北上尾駅があるほか、市東部には埼玉新都市交通（ニューシャトル）の原市駅、沼南駅があります。また、市内を貫通する国道17号の上尾道路が平成28（2016）年に開通し、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）へのアクセスが大幅に向上するなど、交通利便性の高い地域となっています。

《上尾市の位置》



第2節 沿革

江戸時代、上尾地区は中山道にある69の宿場町の5番目の宿として、平方地区は荒川舟運の要衝として、原市地区は市場町として発展しました。

明治16(1883)年には、高崎線開通と同時に上尾駅が設置され、中山道とともに市街地形成の基礎になりました。明治末期には近代工業の先駆けとして上尾町や平方村に製糸工場が建てられ、昭和期に入ると、機械・金物・食品工場が操業するなど工業都市としても発展しました。

昭和30(1955)年に上尾町、平方町、原市町、大石村、上平村、大谷村の3町3村が合併して上尾町となり、3年後の昭和33(1958)年7月15日、市制施行により上尾市が誕生しました。

その後は、工場立地と宅地化の進展により田園都市から工業都市、住宅都市へと発展し、人口の急増や市街地の拡大に対応した都市基盤の整備や、市民の生活環境の整備などが進められてきました。令和5(2023)年には市制施行65周年を迎えています。

市制施行の際に約37,000人だった人口は、宅地化の進展により加速度的に増加し、昭和45(1970)年には10万人を、平成4(1992)年には20万人を突破し、令和7(2025)年10月1日現在では230,618人となっています。

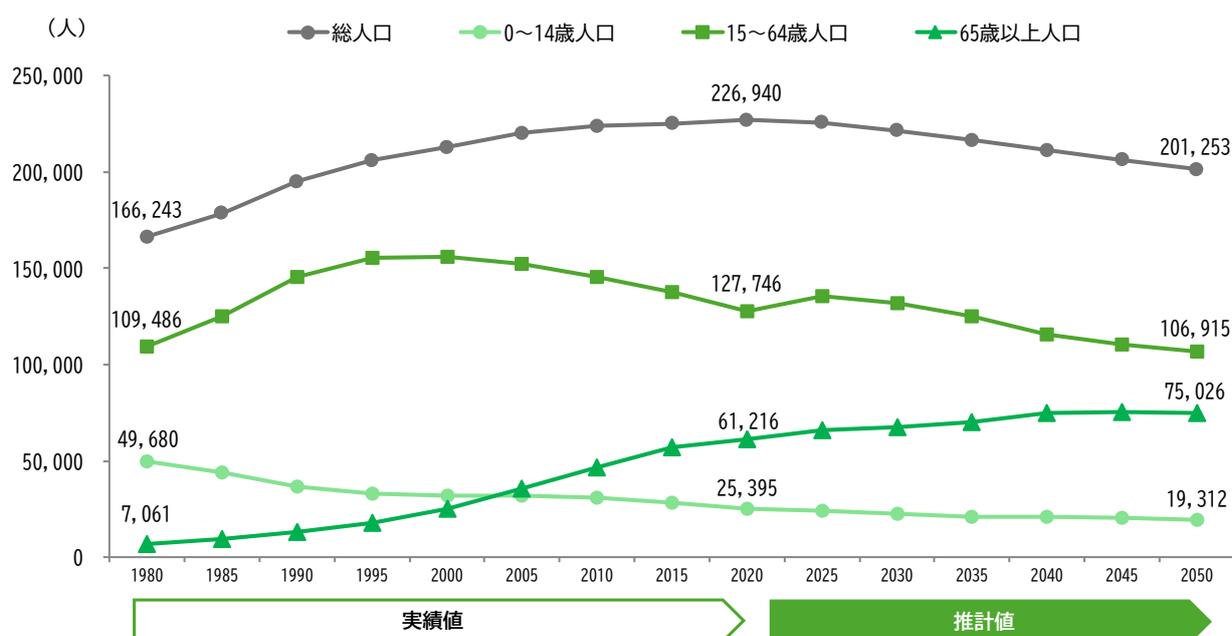
第3節 人口

(1) 人口の推移と推計

これまでの総人口（国勢調査人口）の推移を見ると、昭和55（1980）年に166,243人だった人口は、令和2（2020）年は226,940人と、順調に増加してきたことが分かります。

しかしながら、国立社会保障・人口問題研究所（「社人研」）の推計によれば、総人口は今後減少に転じ、緩やかに減り続けて令和32（2050）年には201,253人になるとされています。年齢区分別で見ると、年少人口（0～14歳人口）と生産年齢人口（15～64歳人口）は減少傾向が続く一方で、老年人口（65歳以上人口）は令和32（2050）年まで概ね増加し続けると推計されています。

《人口の推移と社人研推計（国勢調査ベース）》



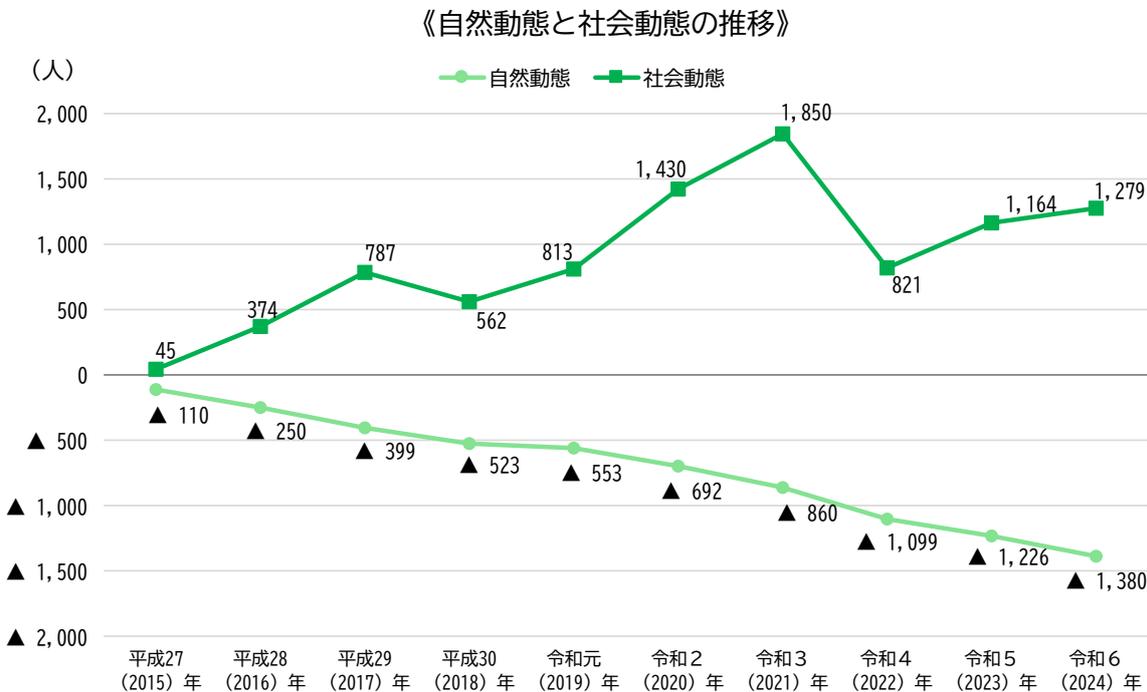
出典：総務省「国勢調査」令和2（2020）年、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」令和5（2023）年

※令和7（2025）年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」による推計値。
実績値の総人口には年齢不詳が含まれているため、年齢3区分別人口の合計は総人口と一致しない。

(2) 人口動態

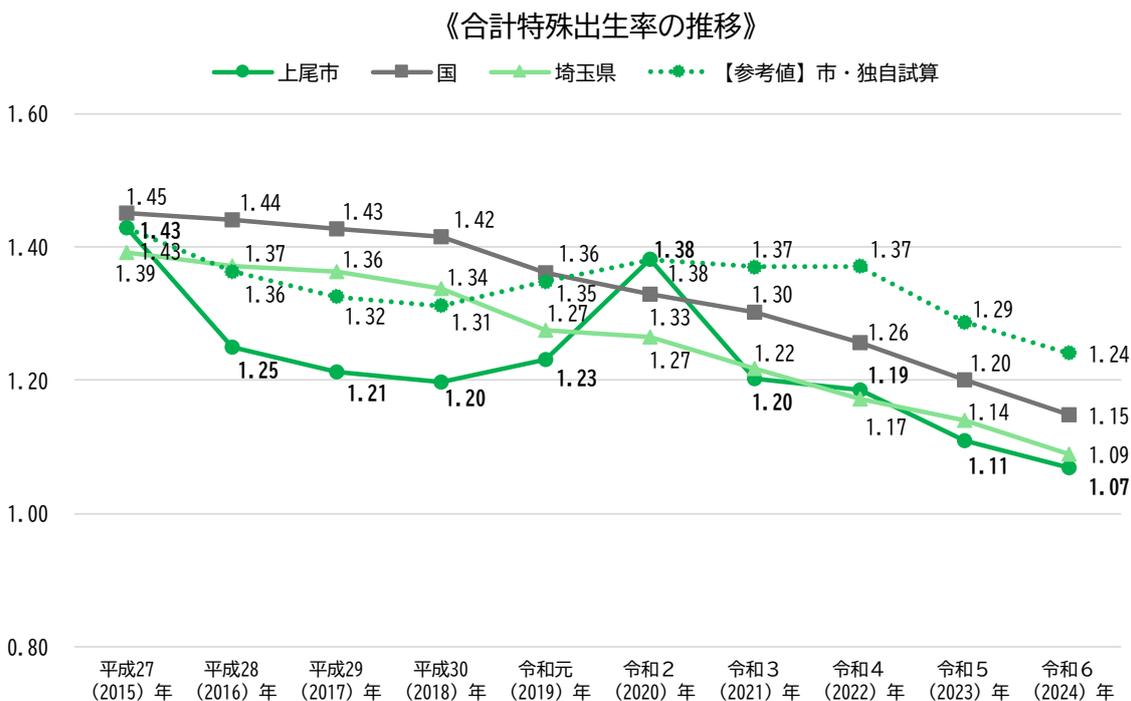
本市の自然動態については、平成27(2015)年以降は死亡者数が出生者数を上回る人口の自然減が続いていることがわかります。

他方、社会動態については、年によって人数に差異はあるものの、転入者数が転出者数を上回る社会増の傾向が続いています。



資料：上尾市「統計あげお」（令和6年版）

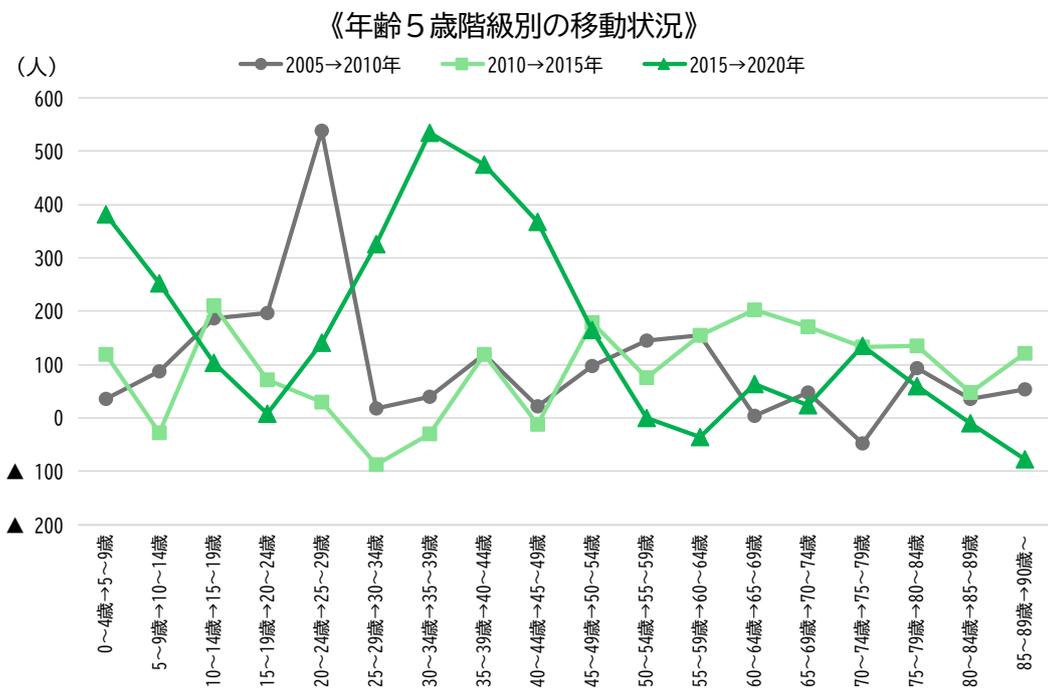
本市の合計特殊出生率を見ると、上昇した年もあるものの、長期的にみれば低下傾向にあることがわかります。



資料：埼玉県「埼玉県の合計特殊出生率」

※点線は市の独自試算（国勢調査実施年は総務省統計局「国勢調査人口」の日本人女性人口、国勢調査実施年以外は総務省統計局「国勢調査人口」の日本人女性人口に住民基本台帳人口の増減率を乗じて推計した女性人口を合計特殊出生率算出に用いた。）

また、本市の年齢5歳階級別の移動状況を純移動（転入者数－転出者数）で見ると、2005年から2010年には20歳代の転入超過が大きくなっていましたが、2015年から2020年には30から40歳代の転入超過が大きくなっているなど、傾向に変化が見られています。

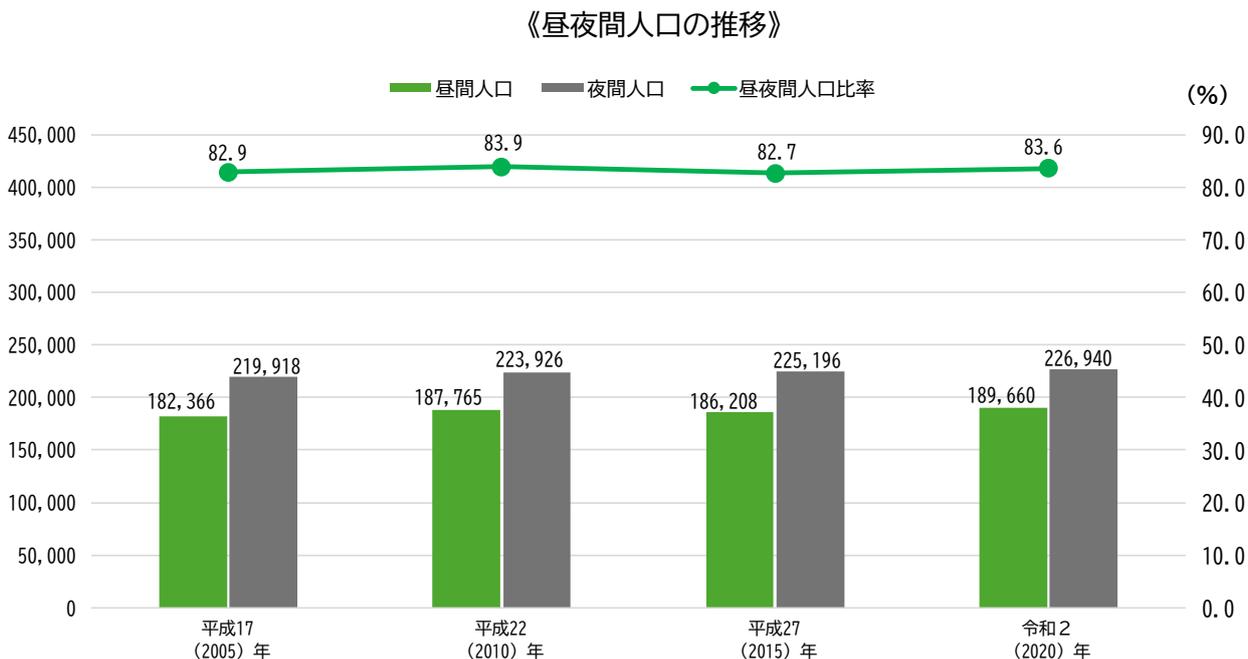


資料：総務省「国勢調査」（各年10月1日時点）

(3) 昼夜間人口

本市は、さいたま市や東京都等への通勤・通学者が多く、昼間人口が夜間人口を下回り、住宅都市としての性格が見られます。

昼夜間人口比率は82～83%台で推移し、令和2（2020）年は83.6%となっています。



資料：総務省「国勢調査」（各年10月1日時点）

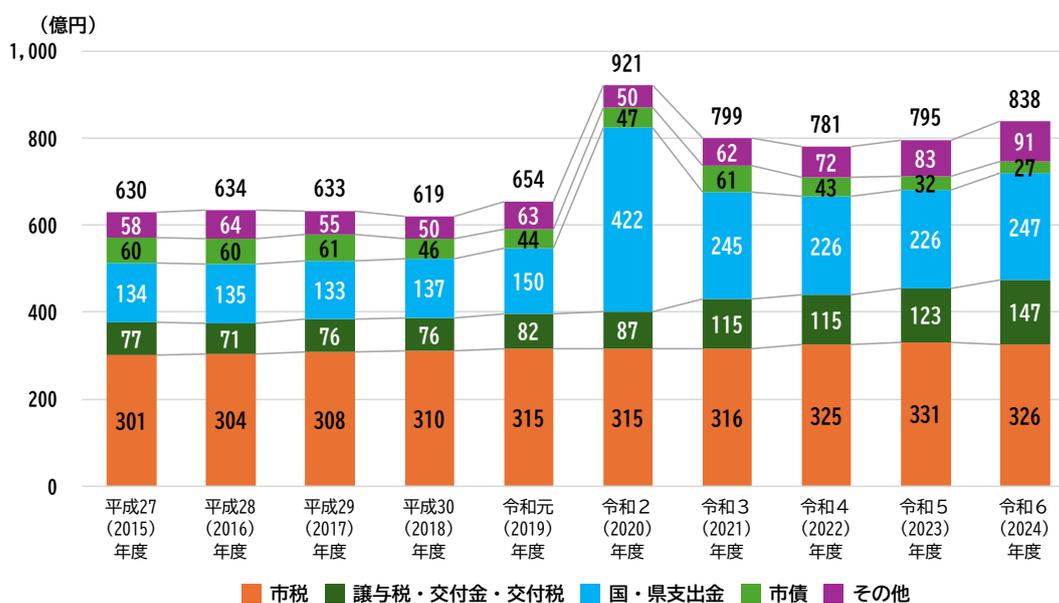
第4節 財政

(1) 歳入の推移

近年における本市の歳入（普通会計）の推移を見ると、平成30（2018）年度までは600億円程度でしたが、感染症対策等の国・県支出金の増加を主な要因として、令和2（2020）年度には一時的に900億円台となり、以降は約800億円で推移しています。

市税は概ね微増傾向にあり、また市債は令和3年度から減少傾向にあります。

《歳入（普通会計）の推移》



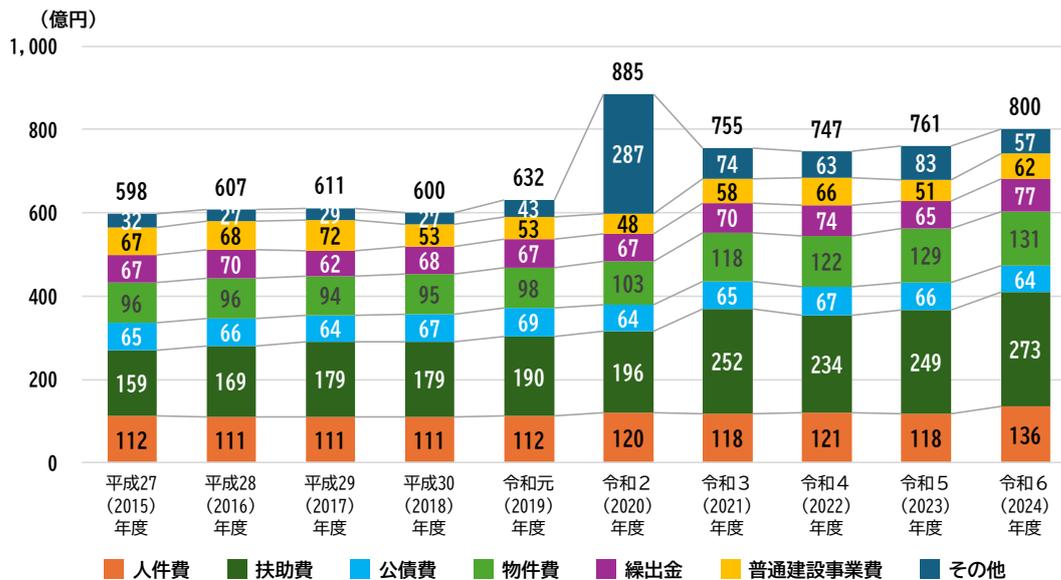
資料：埼玉県「財政状況資料集」市町村決算等

(2) 歳出の推移

近年における本市の歳出（普通会計）の推移を見ると、平成30（2018）年度までは歳入と同様に600億円前後でしたが、感染症対策を主な要因として、令和2（2020）年度には一時的に約900億円となり、以降は750億円前後で推移しています。

特に扶助費の増加が顕著であり、平成27（2015）年度の159億円から、令和6（2024）年度には273億円となっています。

《歳出（普通会計）の推移》



資料：埼玉県「財政状況資料集」市町村決算等

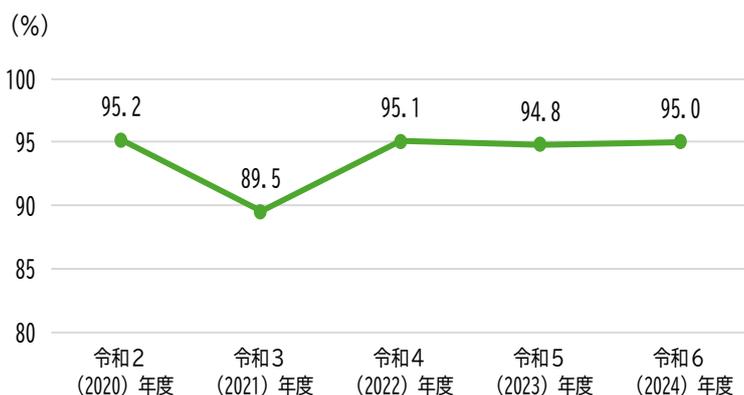
〈経常収支比率の推移〉

経常収支比率は、市税等の経費一般財源が、人件費、扶助費、公債費等の経常的経費にどの程度使われているかを示す比率で、この比率が高いほど財政構造が硬直化していることを表します。

全国的に高齢化による扶助費の増加などにより、経常収支比率は上昇傾向となっています。本市の当該比率は、県内の類似団体と比べ、やや高めとなっています。

今後、令和6年度数値（95.0程度）の維持を目標とし、さらなる財政基盤の強化を図る必要があります。

$$\frac{\text{経常的経費に充当した一般財源}}{\text{経費一般財源収入総額} + \text{臨時財政対策債}} \times 100$$



経費一般財源

地方税、普通交付税を中心とする毎年度経常的に収入される一般財源。

経常的経費

人件費、扶助費、公債費等のように毎年度経常的に支出される経費。

臨時財政対策債

一般財源の不足に対処するため、特例として発行される地方債。通常収支の財源不足額を国と地方で折半し、地方公共団体が発行する。

類似団体

市町村を「人口」と「産業構造」で分類し、その類型により、大都市、特別区、中核市、施行時特例市、都市、町村ごとに団体を分別したもの。

第3章 計画策定のための各種調査結果

第1節 調査等の概要

(1) 市民意識調査

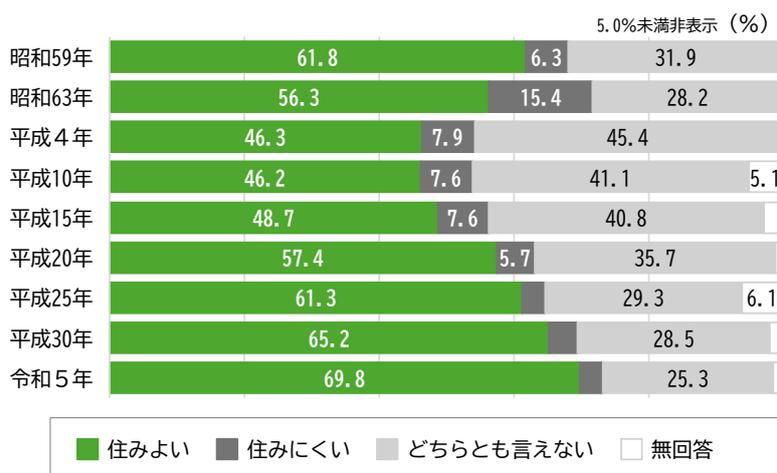
令和5（2023）年11月に実施した市民意識調査から、上尾市民の意識の主な特徴について、次のように読み取ることができます。

《市民意識調査の実施概要》

- ・調査対象 3,000人（無作為抽出による18歳以上の市民）
- ・調査期間 令和5（2023）年11月
- ・有効回答数 1,667票（回収率：55.6%）

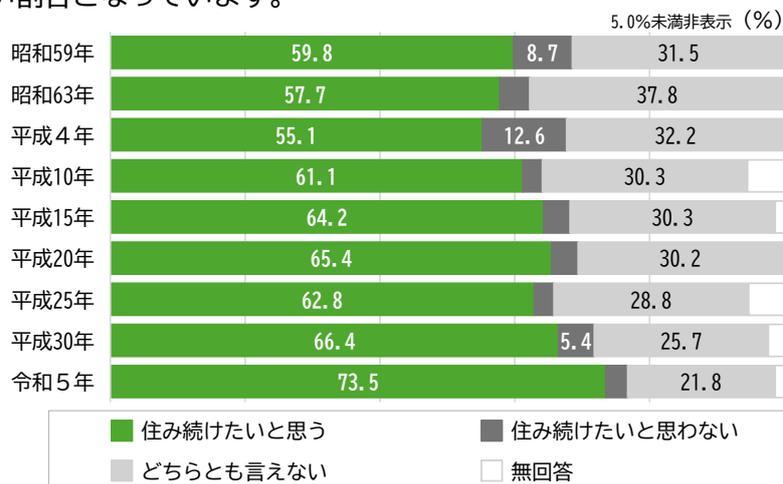
① 住み心地

「住みよい」が69.8%、「住みにくい」が3.4%で、昭和59（1984）年以降の調査結果と比較すると、「住みよい」の割合が平成10年調査以降増加傾向にあり、過去の調査結果の中で最も高い割合となっています。



② 定住意向

本市に今後も「住み続けたいと思う」が73.5%を占め、定住の意向は全体的に高く、昭和59（1984）年調査以降で最も高い割合となっています。



③暮らしの環境

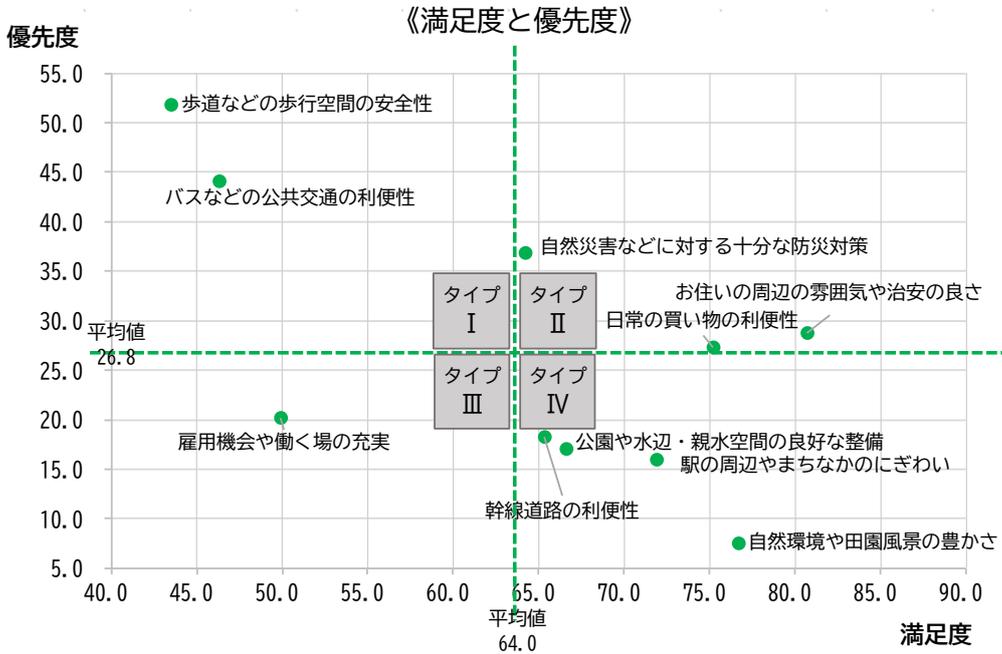
本市の住環境について、満足度と優先度の相関関係を示すと下の表と図のとおりとなります。図の横軸は、満足度（「満足」と「やや満足」割合の合計）、縦軸は優先度を表し、それぞれ全項目の平均値の位置を示しています。

タイプⅠは、今後力を入れて取り組むべきと考えられる項目で、「歩道などの歩行空間の安全性」、「バスなどの公共交通の利便性」が挙げられます。

タイプⅡは、現状維持を図るべきと考えられる項目で、「お住いの周辺の雰囲気や治安の良さ」などが挙げられます。

タイプⅢは、状況に応じて取り組むべきと考えられる項目で、「雇用機会や働く場の充実」が挙げられます。

タイプⅣは、既に充実している等市民からみた優先度は高くないと考えられる項目で、「自然環境や田園風景の豊かさ」などが挙げられます。



項目	満足度		優先度	
	R 5	H30(参考)	R 5	H30(参考)
駅の周辺やまちなかのにぎわい	71.9	69.7	16.0	15.7
日常の買い物の利便性	75.2	72.7	27.3	24.9
雇用機会や働く場の充実	49.9	43.9	20.2	22.8
お住いの周辺の雰囲気や治安の良さ	80.7	75.2	28.7	29.5
自然環境や田園風景の豊かさ	76.7	74.4	7.5	7.3
歩道などの歩行空間の安全性	43.5	39.6	51.8	52.0
幹線道路の利便性	65.3	65.0	18.3	17.8
バスなどの公共交通の利便性	46.3	44.1	44.1	42.9
公園や水辺・親水空間の良好な整備	66.6	66.4	17.0	14.1
自然災害などに対する十分な防災対策	64.2	53.0	36.8	45.7
平均値	64.0	60.4	26.8	27.3

(2) 市民ワークショップ

まちづくりに関する市民の意向を把握し、また本市のまちづくりを自分事として捉える市民を増やし、本市の未来について市民と話し合うために開催しました。

《市民ワークショップの実施概要》

- ・募集方法 上尾市在住の18歳以上の方から無作為に3,000人を抽出し、参加募集案内を送付
- ・開催日時 令和6(2024)年10月～11月 全4回
- ・各回参加者とテーマ テーマ別に上尾市のよいところ・改善が必要などころの共有

回数	日程	場所	テーマ
参加者数	時間：9時30分～12時30分		
第1回 29名	令和6年10月6日 (日)	上尾市役所本庁舎 行政棟7階大会議室	① 子育て・教育 ② にぎわい
第2回 32名	令和6年10月19日 (土)		① 福祉 ② 健康・生涯学習
第3回 25名	令和6年10月27日 (日)		① 人権・コミュニティ ② 環境
第4回 21名	令和6年11月16日 (土)	上尾市役所本庁舎 議会棟4階全員協議会室	① 安全・安心 ② 広報・行財政



(3) 若者会議

ふだん市役所と関わりの少ない10～20代の若者のニーズや提案をうかがうこと、また、若者が上尾市のまちづくりに関心を持つきっかけになることを目的に開催しました。

《若者会議の実施概要》

- ・募集方法 上尾市在住・在学の概ね25歳以下の高校生・大学生などに、参加募集案内を配布
- ・参加人数 18人

日程	場所	テーマ
令和6年11月24日(日) 9時30分～12時30分	上尾公民館 講座室 402	① あげおについて思うこと ② あげおの理想の状態



(4) こどもアンケート

総合計画策定の基礎資料とするために、小・中学生を対象にWebアンケートを行いました。

《こどもアンケートの実施概要》

- ・調査対象 小学3年生、小学5年生、中学2年生
- ・調査期間 令和6(2024)年9月20日(金)～10月15日(火)
- ・有効回答数 2,331票(回収率：43.0%)
- ・主な設問 上尾市の住みやすさ、定住意向、生活していてよいと感じるところと悪いと感じるところ、まちの中で将来に残したい好きな場所や風景

第2節 主な市民意見

各種調査等から得られた市民意見を、まちづくりの基本方向ごとに示します。

まちづくりの基本方向1 明日を担う人が育つまちづくり

市民意識調査

- ◆ 少子化対策や子育て支援のため、今後充実させた方がよいと思う取組〔上位3項目〕
 - ① 保育施設の整備
 - ② 困難を抱える子ども・若者の支援（ヤングケアラー、ひきこもりなど）
 - ③ こどもの居場所支援（子ども食堂、学習支援など）
- ◆ 持続可能な都市として存続するために、重点をおいて取り組むべき分野〔上位3項目〕
 - ① 子育て支援の充実
 - ② 高齢者福祉の充実
 - ③ 公共交通機関の充実

市民ワークショップ

【よいところ】

- ◆ こどもの城やアッピーランドがある
- ◆ 自然が多く田舎の雰囲気の中で子育てできる
- ◆ 給食がおいしい

【気になるところ】

- ◆ 保育園に空きが少ない
- ◆ 駅前や室内の遊び場がない
- ◆ 小中学校の建物が古い

若者会議

【よいところ】

- ◆ こども向けイベントがたくさんあることがよい
- ◆ 英語教育がよい

【気になるところ】

- ◆ 休日などに勉強できるスペースが少ない

こどもアンケート

【気になるところ】

- ◆ 暑い日や雨の日に屋内で遊べる場所がほしい
- ◆ ボールで遊べる場所が少ない
- ◆ 静かに勉強できる場所がない

まちづくりの基本方向2 人生が楽しめるまちづくり

市民意識調査

- ◆生涯にわたり主体的な健康づくりに取り組むため、スポーツや健康に関して行政に期待すること〔上位3項目〕
 - ①スポーツや健康活動が手軽に楽しめるための環境整備
 - ②イベントの充実
 - ③日常的な情報発信
- ◆生涯学習活動として学びたいこと〔上位3項目〕
 - ①パソコン、スマートフォンなど情報化社会に対応するための技能や知識に関するもの
 - ②水泳、剣道、健康体操やウォーキングなどスポーツ・健康に関するもの
 - ③音楽鑑賞、読書、園芸、DIYなど趣味に関するもの

市民ワークショップ

- 【よいところ】
- ◆運動イベントが多い（上尾シティハーフマラソンや地域イベントなど）
 - ◆スポーツ施設が多い（上尾運動公園、武道館、アイスアリーナ）
 - ◆アッピー体操がよい
- 【気になるところ】
- ◆地域の活動を知る方法が少ない
 - ◆現役世代でも参加しやすい時間帯での講座設定が必要

若者会議

- 【よいところ】
- ◆スポーツ施設が多い
- 【気になるところ】
- ◆埼玉上尾メディックスがあるのにバレーボールの知名度がない

こどもアンケート

- 【将来に残したいもの】
- ◆ささら獅子舞、どろいんきょを残したい
- 【気になるところ】
- ◆家の近くに図書館がほしい
 - ◆野球やサッカー、バスケットなどを自由にできる場所がほしい

まちづくりの基本方向3 支え合う安心なまちづくり

市民意識調査

- ◆ 持続可能な都市として存続するために、重点をおいて取り組むべき分野〔上位3項目〕
 - ①子育て支援の充実 ②高齢者福祉の充実 ③公共交通機関の充実
- ◆ 障害のある人と共生する上で必要だと思う取組〔上位3項目〕
 - ①障害のある人に対する理解促進 ②障害のある人に対する偏見や差別の解消
 - ③バリアフリーの推進

市民ワークショップ

【よいところ】

- ◆ 作業福祉事務所（働く場、コミュニティ）がある
- ◆ リハビリの介護施設がある
- ◆ 小中高に障害者向けの学級がある

【気になるところ】

- ◆ 福祉の人手不足
- ◆ 高齢者などの憩いや団らんの場が少ない
- ◆ 道路のバリアフリーが不十分で、ベビーカーや車イスにとっては道路が狭い

こどもアンケート

【気になるところ】

- ◆ 高齢者がバスの利用や買い物に不便している
- ◆ 近くにバス停があれば、高齢者、小さなこども連れ、障害のある人が便利になる

まちづくりの基本方向4 誰もが自分らしく暮らせるまちづくり

市民意識調査

- ◆ あなた自身や家族・知人が、さまざまな人権について正しく理解するために必要だと思うこと〔上位3項目〕
 - ①学校における人権教育の推進 ②社会的に弱い立場の人への支援救済策の充実
 - ③職場での理解・協力
- ◆ 多文化共生社会の実現に向け、力をいれるべき施策〔上位3項目〕
 - ①多言語による対応、情報発信の充実 ②日本語習得の支援
 - ③外国人市民のための相談窓口の充実

市民ワークショップ

【よいところ】

- ◆ PTA や市議会で女性が活躍している
- ◆ パートナーシップやファミリーシップの制度がある
- ◆ 外国人とのふれあいを通じて色々な言語が学べる
- ◆ 異文化交流行事、文化センターでのワールドフェアがある

【気になるところ】

- ◆ 言葉の壁があり、外国人の町会への参画が難しい
- ◆ 街中の案内板での外国語表記が少ない

こどもアンケート

【気になるところ】

- ◆ いじめや不登校の問題がある

まちづくりの基本方向5 安全な暮らしを守るまちづくり

市民意識調査

- ◆ 災害に強いまちにしていくために必要だと思う取組〔上位3項目〕
 - ①河川整備や雨水排水整備などの水害対策の強化
 - ②防災ガイドブックやハザードマップ等の周知 ③上・下水道などの耐震性の向上
- ◆ 地域の防犯対策で特に望むこと〔上位3項目〕
 - ①防犯カメラの増設などの防犯に関わる環境整備
 - ②防犯パトロールカーによるパトロールの強化 ③犯罪発生情報などの情報提供
- ◆ 電車やニューシャトル、バスなどの公共交通の利便性を高めるために必要だと思う取組〔上位3項目〕
 - ①市内循環バス「ぐるっとくん」の運行の充実 ②電車、ニューシャトルの運行本数の増加
 - ③民間路線バスの運行の充実
- ◆ 上尾市が持続可能な都市として存続するために重点をおいて取り組むべき分野〔上位3項目〕
 - ①子育て支援の充実 ②高齢者福祉の充実 ③公共交通機関の充実

市民ワークショップ

【よいところ】

- ◆ 地域の行事で防災が楽しく組み込まれている
- ◆ 登下校の見守りボランティア
- ◆ ぐるっとくんがある
- ◆ 地域ごとの消防団がある

【気になるところ】

- ◆ 防災無線が聞こえにくい ◆ 空き家の増加 ◆ 交通渋滞 ◆ バス本数の減少、利便性
- ◆ 地区の消防団の人手不足

若者会議

【よいところ】

- ◆ 大宮が近く、都心や地方にも行きやすい
- ◆ 交通面であまり不自由はない

【気になること】

- ◆ 災害の被害は軽微だが、荒川の氾濫は気になる

こどもアンケート

【よいところ】

- ◆ 旗振りをしてくださる方がいて安心

【気になるところ】

- ◆ 横断歩道が必要な場所がある
- ◆ ぐるっとくんがもう少し本数があると便利

まちづくりの基本方向6 未来に引き継ぐ環境と共生するまちづくり

市民意識調査

- ◆ごみの減量化促進に向け、指定日にごみ集積所に資源物を排出する以外の資源物の排出手段〔上位3項目〕
 - ①自治会やPTAなどの地域リサイクルに排出している
 - ②スーパーマーケットなどの民間施設の資源回収ボックスに排出している
 - ③公共施設等の資源回収ボックスに排出している

市民ワークショップ

- 【よいところ】
 - ◆住宅地が整備されている
 - ◆市街地と自然のほどよいバランス
 - ◆上尾駅前の自転車道整備
- 【気になるところ】
 - ◆団地の老朽化や高齢化
 - ◆下水道管の老朽化、下水のない地区が多い

若者会議

- 【よいところ】
 - ◆公園が多い、大きい
- 【気になるところ】
 - ◆公園器具の老朽化が気になる
 - ◆道が暗く、ガタガタなところがある

こどもアンケート

- 【よいところ】
 - ◆丸山公園、上平公園、上尾運動公園がある
 - ◆ショッピングモールがある
 - ◆緑が多く自然豊か
- 【気になるところ】
 - ◆道にたばこがたくさん落ちている
 - ◆通学路の歩道が狭い
- 【残したい場所や風景】
 - ◆鴨川沿いの桜咲く土手

まちづくりの基本方向7 活力にあふれたにぎわいあるまちづくり

市民意識調査

◆ 上尾市の産業（農業・商業・工業・観光）の発展のために、特に力を入れるべきこと
〔上位3項目〕

①商店街の活性化 ②農産物の地産地消の拡大 ③魅力ある食・お土産の充実

市民ワークショップ

【よいところ】

- ◆ 上尾夏まつりが栄えている
- ◆ 年間を通して色々な祭りがある
- ◆ 駅前など商業施設が多い
- ◆ 大きなショッピングモール、レジャー施設が多い
- ◆ 就業先が多い

【気になるところ】

- ◆ アッピー通り(商店街)が閑散
- ◆ 駅周辺以外がさびしい
- ◆ 観光スポットが少ない

若者会議

【よいところ】

- ◆ ショッピングモールが2つもある
- ◆ イルミネーションがきれい
- ◆ 飲食店が充実している

【気になるところ】

- ◆ 映画館やアミューズメント施設がない

こどもアンケート

【よいところ】

- ◆ コンビニやスーパーで買い物しやすい
- ◆ 上尾夏まつりがよい

【気になるところ】

- ◆ 映画を鑑賞する施設がない

【残したい場所や風景】

- ◆ あげお花火大会

まちづくりの基本方向8 持続可能な都市経営

市民意識調査

◆ 上尾市の行政情報などの入手のしかた〔上位3項目〕

①『広報あげお』 ②自治会の回覧や掲示板 ③『あげお議会だより』

◆ 地域活動やボランティア活動について、今後行いたいと思う活動〔上位3項目〕

①特技や趣味を生かした交流活動（手芸、農作業、スポーツ、外国語、パソコンなど）
②周辺環境を整備する活動（道路・公園の清掃、リサイクルなど）
③高齢者を支援する活動（家事援助、話し相手、見守り、外出付き添いなど）

市民ワークショップ

【よいところ】

◆ あげおほっと便（メールマガジン）が役立つ
◆ コンビニで各種証明が取れる
◆ 自治会が環境整備やまつりをしている

【気になるところ】

◆ イベント告知が広報紙だけでもったいない
◆ 市の経営状況の見える化
◆ どういう団体やボランティアがあるか分からない

若者会議

【よいところ】

◆ さまざまな世代に向けたイベントがある

【気になるところ】

◆ 特産品の知名度が低い

こどもアンケート

【よいところ】

◆ 近所の人が優しく話しかけてくれたり、あいさつを返してくれたりする

【気になるところ】

◆ よい市なのにアピール不足

第1編 はじめに

第2編 基本構想

第3編 後期基本計画

1

2

3

4

5

6

7

8

第4編 参考資料